

熊本城跡周辺で出土した焼塩壺について

熊本城調査研究センター 本門拓也

I. はじめに

「塩」とは、私たちの生命維持に必要不可欠なミネラルの一種であり、身体の生理的機能と密接に関係している。また、塩は食文化だけでなく、人々の生活や社会、さらには政治・経済にも大きな影響を与えてきた。

日本では、縄文時代後期（約 4,000 年前）に土器を用いた製塩が始まったが、生産できる量は非常に少なかった。そのため効率的に塩をつくる製塩技術が発達し、生産量も次第に向上した。近世には、武家が宴席で贈答品として焼塩壺を用いるなど、塩は文化の中でも非常に重要な役割を担うようになった。また、焼塩壺に刻まれた刻印は、文献資料と対比することで製造年代や流通の実態を知る手がかりとなる。

今回の発表では、熊本市内で出土した焼塩壺の事例を集成し、その特徴や流通範囲、消費・廃棄の様相について検討することで、熊本城周辺における塩の文化の一端を明らかにする。

II. 日本の塩づくり

日本は、岩塩といった塩資源に全く恵まれていない。また、温暖湿潤な気候であり、天日（太陽熱や風）の力だけで、海水の水分を蒸発させて塩をつくることは非常に難しく、効率的に塩を生産するため、さまざまな製塩技術が発達した。

(1) 縄文時代～古墳時代 直煮製塩

海水をそのまま煮詰めて塩をつくる方法であり、生産できる量は非常に少なかった。

(2) 古墳時代～奈良・平安時代 藻塩焼製塩

海藻を積み重ね、海水を上からかけて乾燥させる作業を繰り返した後、塩が付着した海藻を焼いてできた灰を釜に入れ、海水を加えることで濃い塩水をつくる。さらに、その上澄みを煮詰めることで塩をつくる方法である。

(3) 室町時代 揚浜式塩田製塩

粘土板の上に砂を敷き詰め、汲み上げた海水を人力で運搬して撒いた後、天日で水分を蒸発させた後、塩分を含んだ砂をろ過槽に集め、海水をかけて濃い塩水を煮詰めて塩をつくる。

(4) 江戸時代 入浜式塩田製塩

潮の満ち引きを利用して塩田に海水を引き入れ、毛細管現象によって砂の表面まで海水を吸い上げる方法である。その後の工程は揚浜式塩田と同じである。

III. 焼塩壺とは

焼塩壺とは、「蓋を伴う小形の土師質土器で、焼塩の製造と流通を兼ねた容器」（江戸遺跡研究会編 2001）である。焼塩は、あらかじめ焼成した壺に粉碎した粗塩を詰め、蓋をして

壺ごと焼いて精製したもので、「壺焼塩」とも呼ばれた。また、壺焼塩は、武家の宴席で用いられる特殊な塩であり、贈答品としても利用された（同上）。

また、焼塩壺には焼塩の生産者ごとに異なる刻印が施されており、出土した焼塩壺を調べることで、塩の流通の様子をうかがうことができる。

(1) おもな成形技法

輪積成形：底部の上に体部を積み上げて成形する。

板づくり成形：芯の周りに粘土板を巻き付けて円筒づくり、その一端に粘土塊を詰めて底部とする。

(2) 刻印

焼塩壺の身や蓋には刻印が施されることがあり、地名や人名を表したものが多い。これらの刻印は、焼塩の生産者である「壺塩屋」を示すものと考えられている。「堺湊伊織」や「泉州麻生」、「天下一堺ミなど藤左衛門」などの刻印は、生産者や産地を示す一種の商標としての役割を果たしていた。

また、刻印の中は文献資料と対比でき、焼塩壺の流通範囲や製造時期を知る手がかりとなる。このため、刻印は焼塩壺の生産や流通の様子を明らかにする上で重要な資料である。

Ⅳ. 熊本城跡周辺出土の焼塩壺

(1) 熊本城跡遺跡群古城上段（図 1-⑤）

調査区の所在地は熊本市中央区二の丸 1-5 である。現在は国立病院機構熊本医療センターの施設が整備されている。

2002 年度の発掘調査では、焼塩壺が遺構（55 点）や土層（3 点）から 58 点出土している。破片の資料からほぼ完形のものまでさまざまである。

特に、焼塩壺の表面に「天下一堺…」の刻印がある資料 2 点（図 2-1・2）が、廃棄用の土坑（S073）から出土した。いずれもコップ状の形で、底の部分は平らである。口縁部は胴部からほぼ真っ直ぐに上方へ伸びる。成形技法は輪積成形で、内側には布目の跡やケズリ（削って整えた痕跡）、外側にはナデ調整（表面をなでて整えた調整）がみられる。

図 2-1 は、器高 12.05cm、口径 7.2cm、底径 5.85cm である。表面には「天下一堺ミなど藤左衛□」の角刻印がみられる。図 2-2 は、高さ 11.6cm、口径 6.85cm、底径 4.8cm である。表面には「天下一堺ミなど藤左□□」の角刻印がみられる。この特徴から 17 世紀後半と考えられる。

また、廃棄用の土坑（S134）からは焼塩壺が 34 点出土した。その他に、抹茶碗や菓子盆、合子、花瓶なども出土しており、八代松井氏下屋敷「一日亭」に関連する廃棄土坑である可能性が指摘されている（村崎編 2012）。

(2) 熊本城跡遺跡群 桜馬場地区（図 1-③）

調査区の所在地は熊本市中央区二の丸 1-14 である。現在は熊本城の観光施設である「桜

の馬場 城彩苑」が整備されている。

2008 年度の発掘調査では、近代以降の整地層から、ほぼ完形に近い状態で 1 点 (図 3-5) 出土した。コップ状の形で、底の部分は平らである。口縁部は胴部よりややすぼまりながら直立する。器高 9.0cm、口径 5.1cm (復元値)、底径 4.5cm である。成形技法は輪積成形で、内側には粗いナデ調整がみられる。この特徴から 17 世紀と考えられる。

(3) 熊本城跡遺跡群 高麗門南側 (図 1-⑦)

調査区の所在地は熊本市中央区新町・横手である。現在 JR 鹿児島本線が整備されている。

2012～13 年度調査の発掘調査では、ほぼ完形に近い状態で 1 点 (図 3-6) 出土した。コップ状の形で、底の部分は平らである。口縁部は胴部からほぼまっすぐ上方へ伸びる。器高 8.8cm、口径 5.8cm、底径 4.1cm である。成形技法は輪積成形で、内側にはナデ調整や指押さえ (指で押さえて整えた痕跡)、外側にはナデ調整がみられる。この特徴から 17 世紀と考えられる。

V. おわりに

今回、確認できた焼塩壺の多くは 17 世紀を中心とするものであり、「天下一堺…」の刻印がみられる資料もある。

特に、焼塩壺は、古城上段ではまとまった数量が確認され、八代松井氏下屋敷「一日亭」に関連する廃棄土坑から出土している。焼塩壺が武家階層において一括して廃棄された様相をうかがうことができる。

【引用参考文献】

- ・江戸遺跡研究会編 (2001)『図説 江戸考古学研究事典』p.42-43,p.354-357,柏書房
- ・美濃口雅朗/山下宗親編 (2011)『熊本城跡 桜馬場地区一熊本城跡遺跡群桜馬場地区 埋蔵文化財確認調査報告書一』熊本市の文化財第 7 集,熊本市教育委員会
- ・長谷部善編『花岡山・万日山遺跡群 新馬借遺跡 北島遺跡群 万楽寺出口遺跡』(2011) 熊本県文化財調査報告第 266 集,熊本県教育委員会
- ・村崎孝宏編 (2012)『熊本城遺跡群古城上段』熊本県文化財調査報告第 269 集,熊本県教育委員会
- ・坂田和弘/師富成香/永松望編 (2014)『熊本城跡遺跡群 JR 鹿児島本線外一線連続立体交差事業に伴う新馬借遺跡および花岡山・万日山遺跡群埋蔵文化財発掘調査報告書』熊本県文化財調査報告第 303 集,熊本県教育委員会
- ・熊本市熊本城調査研究センター編 (2016)『熊本城跡発掘調査報告書 2-本丸御殿の調査-』熊本城調査研究センター報告書第 2 集,第 2 分冊
- ・熊本市熊本城調査研究センター編 (2017)『熊本城跡発掘調査報告書 4-熊本博物館増改築工事に伴う三の丸地区の発掘調査-』熊本城調査研究センター報告書第 4 集
- ・熊本市熊本城調査研究センター編 (2021)『特別史跡熊本城総括報告書 調査研究編』第 3 分冊
- ・伯方塩業株式会社「塩 Q&A」

<<https://www.hakatanoshio.co.jp/salt/history/>> (2026 年 6 月 8 日閲覧)

熊本城跡遺跡群とその周辺の焼塩壺出土地点

1 熊本城跡

① 長局櫓

(熊本城調査研究センター編 2016)
(器種不明 5 点)

② 平櫓

(未報告)
(坏 1 点、蓋 0 点)

③ 桜馬場

(美濃口・山下 2012)
(坏 1 点、蓋 0 点)

④ 二の丸広場

(熊本城調査研究センター編 2021)
(坏 4 点、蓋 4 点)

⑤ 古城上段

(村崎 2012)
(坏 49 点、蓋 9 点)

⑥ 三の丸

(熊本城調査研究センター編 2017)
(坏 1 点、蓋 0 点)

⑦ 高麗門南側

(坂田他 2014)
(坏 1 点、蓋 0 点)

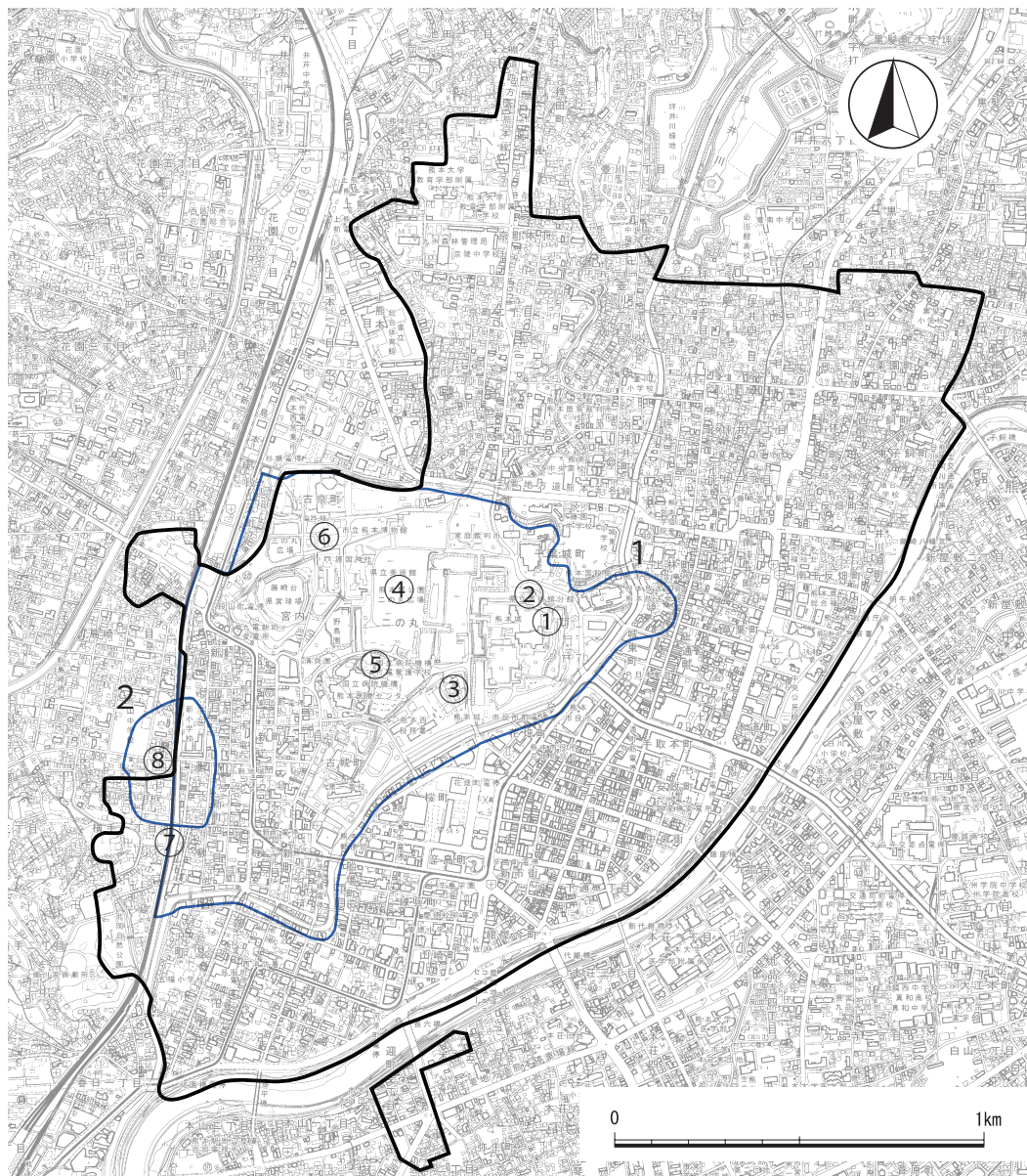
2 新馬借遺跡 (長谷部編 2011)

⑧ (坏 2 点、蓋 0 点)

【合計】

坏 59 点、蓋 13 点、
器種不明 5 点

※各番号は図 1 と対応



※黒太線は、『平山城肥後国熊本城廻絵図』(熊本県立図書館蔵)の城下の範囲を示す
図 1 熊本城跡遺跡群とその周辺における焼塩壺の出土事例 (熊本城調査研究センター編 2020)

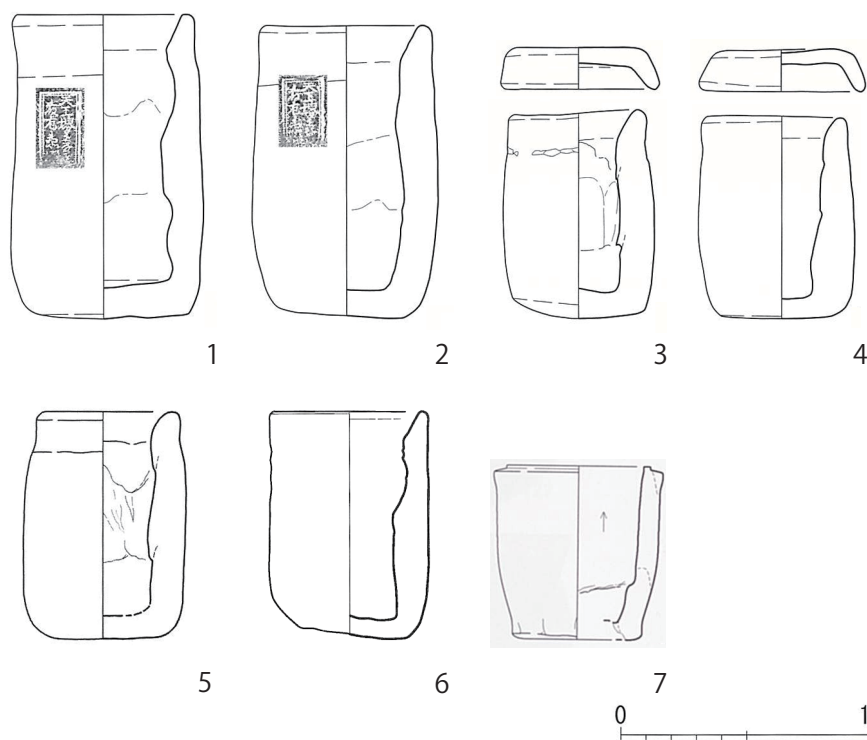


図 2 焼塩壺の遺物実測図 (縮尺 1/3)

(1 ~ 4: 古城上段
(村崎 2012)

5: 桜馬場地区
(美濃口・山下 2012)

6: 高麗門南側
(坂田他 2014)

7: 二の丸広場
(熊本城調査研究センター編 2021)

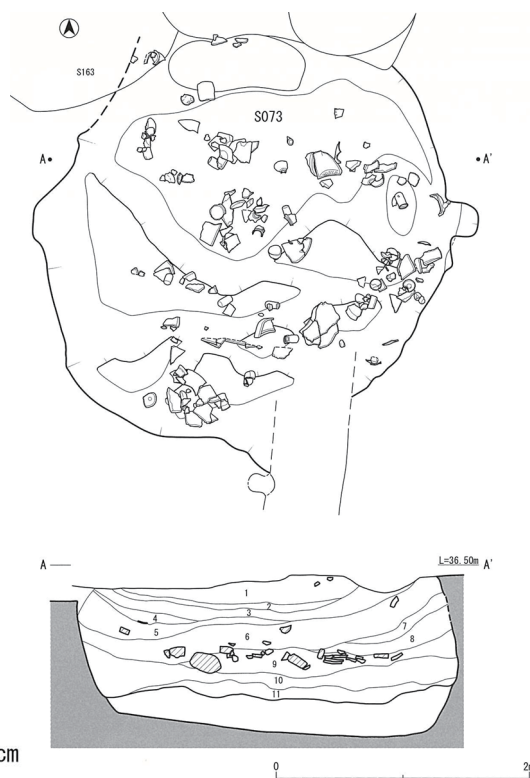


図 3 熊本城跡遺跡群 古城上段 (縮尺 1/60)

焼塩壺出土の廃棄土坑遺構実測図
(村崎 2012)